

① 鳥や自然について知ろう (手を出す前に)



<ヒナがすぐに巣立つわけ>

自然界での命の原則は、他の生物の食物になること。野鳥の世界も毎日命がけですが、わずかでも生きのびれば1年で大人になって子育てを始め、毎年繰り返します。つまり、生き残る方が少ないので、たくさん卵を産み、短期間でヒナを巣立たせなければなりません。

スズメでは5個くらい卵を生み、かえったヒナは約2週間で巣立ち、その後1週間くらいを親子で過ごしてからひとり立ちし、親鳥はまた卵を産むというサイクルを、春から夏にかけて繰り返すようです。なお、巣立ちまでの期間は、メジロやヒヨドリでは10日ほどしかなく、シジュウカラ・ツバメ・ムクドリの中には、3週間ほどかかるものもあります。

<ヒナの成長を支える虫>

鳥も私たち人間と同じで、他の命を食べなくては生きていけません。特に鳥は、活動的に空を飛ぶために体重を増やせないで、食べなくてはすぐにフンを出すことを繰り返します。体重15グラムほどのシジュウカラでも、1年間に必要な虫は10万匹を超えるという試算もあるほどです。

秋冬に虫が少なくなると、木の実などの植物質も食べるようになる小鳥も少なくありません。でも、子育てには高栄養で消化しやすい虫が必要なので、虫が多い春から夏を子育てシーズンとするのが普通です。スズメでさえも、ヒナを巣立たせる2週間に親鳥が虫を運ぶ回数は、4千回を超えるといわれています。

<自然の仕組みから学ぼう>

虫に食べられる植物にとっては、虫を食べる小鳥が必要です。でも、小鳥が虫を食べつくすことはありません。それは、小鳥が増えすぎないからです。毎年子育てをくり返して、ヒナが無事に巣立ったとしても、自立、移動、越冬などの訓練が続くので生きのびるのはわずか。一方で、そうして弱ったり死んだ鳥が食物となって、肉食性や雑食性の鳥などの命を支えているのです。

命の大切さは、このようにさまざまな生物が共存し、持続する自然のしくみとともに再認識されなくてはなりません。2005年から国連「持続可能な開発のための教育の10年」、2011年からは「生物多様性の10年」が始まりました。さまざまな生物のつながりから学び、持続可能な未来を目指すべき時代になったと言えます。

② ヒナを助けるには

<誰にでもできること>

野生の命を助けることは専門家でも難しいものですが、虫を殺さない、虫が食べる植物を残すなど、誰でも小鳥のためにできることがあります。もし、羽がそろっていないようなヒナが落ちていた場合は、巣立ち前に巣から落ちたのかも知れません。近くに巣があるはずなので、そこに戻してやることで助けられる可能性があります。ただし、ヒナにさわるとは、手袋をするなどして安全や衛生に気をつけましょう(親鳥が匂いを気にすることはあまりないと考えられます)。

<手を出す場合/救護するには>

ヒナが明らかにけがや病気だったり、自然が豊かな地域では数少ない希少種のヒナが落ちている可能性もあります。放っておけないと判断した場合は、各都道府県の鳥獣保護担当部署に相談して指示をおくようしてください。なお、「鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律(鳥獣保護法)」によって、保護のために飼育する場合にも許可が必要です。

行政のアドバイスによって、野鳥の救護や保護飼育に取り組んでいる施設に持ち込めば対応してくれることもあります。ただ、野鳥の保護飼育や自然に帰すための知識や技術はまだ確立されていないといえます。もともとヒナの生存率は低いので助けるには大変な労力を要し、人に慣れてしまい自然に戻せなくなる鳥もいることや、施設についてもボランティアで運営されている場合も多く、すべてを受け入れることはできないことも知っておきましょう。また、ドバトやカラスなど増えすぎて問題とされる鳥、外来種などは対応してもらえないこともあります。

<自分で一時的に助けようとする場合に参考になるもの>

BOOK 『野鳥をたすけるはじめての一步
(身近な野鳥の救護・保護のためのハンドブック)』
野生動物救護獣医師協会発行 ¥1,500(税込)

ホームページ
すずめっ子クラブ
http://www.asterisk-web.com/sparrow_club/
特定非営利活動法人 野生動物救護獣医師協会
<http://www.wrvj.org/>
(財)日本鳥類保護連盟 <http://www.jspb.org/hina/hina.html>
(公財)日本野鳥の会 <http://www.wbsj.org/>
(ここからポスターのダウンロードもできます)

シジュウカラの「巣立ち前のヒナ」と「巣立ち直後のヒナ」

目がきちんと開いていない
こともある

あかだか じはだ
赤裸や地肌が見える状態

全く飛ぶことができない

くちばし
嘴は未発達で横に広がった状態

脚が十分に成長していないため
しっかり立つことができない



巣立ち前のヒナ

羽毛が一通り生えそろっているが、
羽色は不鮮明で産毛が残っていたりする

飛び始めるものの、飛翔力が不十分

尾羽が短い

脚はしっかりしている

体つきは親鳥に近づくものの
若干小さく感じる



巣立ち直後のヒナ

このポスターを目立つ所に貼ってください!

日本鳥類保護連盟とは…

日本鳥類保護連盟は、野生鳥獣に関する科学的知識と鳥獣保護の精神を広く普及するために、1947年に創設された公益法人です。毎年、愛鳥週間に行われる「全国野鳥保護のつどい」をはじめ、「全国野生生物保護実践発表大会」、「愛鳥週間用ポスター原画コンクール」など、多くの活動を国や地方自治体等とともに進めてまいりました。野鳥をまもるには、野鳥が巣をつくる場所やエサとなる小動物などを含む自然全体をまもることが必要です。そのため、1960年に創刊した機関誌「私たちの自然」では、植物を含めた鳥以外の生きものも一貫して取り上げてきています。

会員募集!



野鳥やそれを取り巻く自然をまもるためには、多くの方の力が必要です。いつでも、どなたでも入会できます。入会金は不要です。

- ・特別支援会員……………1口 10,000円
- ・正賛助会員……………1口 5,000円
- ・普通賛助会員(学生・生徒)…1口 3,000円
- ・法人賛助会員……………1口 20,000円

会員の方には、会員証と会員バッジをお送りします。機関誌「私たちの自然」の購読料は会費に含まれ、年10回お届けいたします。

財団法人 **日本鳥類保護連盟**
Japanese Society for Preservation of Birds

〒166-0012 東京都杉並区和田3-54-5 第10田中ビル3F
TEL: 03-5378-5691 FAX: 03-5378-5693
<http://www.jspb.org/>